

新しい教科書 が 教室に届くまで

教科書がどのように作られ、全国の子どもたち、先生方のもとに供給されるのか、ご存じでしょうか。新しい教科書の完成まであとわずか。教科書が生まれ、教室で使われるまでの道のりをご紹介します。

イラスト：うつみのりこ

供給の約4年前

編集会議 (基本方針の決定)

編集委員会が発足し、教科書編集がスタート。「どんな子どもになってもらいたいのか」という、目ざす子ども像から始まり、

- どんな教科書にするか。
- どんな教科書が求められているか。
- どんな教材を載せるか。
- どんな構成にするか。

について、学習指導要領に照らして時間をかけてじっくりと話し合い、新しい教科書で何を目ざすのか、その基本方針を決めます。



教材探し・ 教材作り

図書館・書店、各種の講演会など、あらゆるところにアンテナを立てて資料収集や取材を重ねます。発達段階を考慮しながら、主に、教材として取り上げるのにふさわしいものを探したり、テーマや題材を決めて作家や研究者の方に原稿依頼をしたりする段階です。



教材探し・教材作りと教材の審議は、何度も何度も繰り返し、時間をかけてよりよい教材を求めています。

編集会議 (教材の審議)

例えば次のようなさまざまな観点から、教材をじっくりと慎重に審議します。

- 興味・関心がもてるか。
- 内容が理解できるか。
- 人権などの視点から問題はないか。

PICK
UP

説明文の教材探し・ 教材作り

光村図書の説明的文章は、全て、さまざまな分野の専門家が子どもたちのために書きおろしてくださったものです。実は、子どもにも分かるような表現や構成が、この短さの中に整えられた文章は、現実にはなかなかありません。どれもが、身につけさせたい国語の力も見据えながら、筆者と編集委員会が何度も何度もやり取りして練り上げた文章です。

さらに、話題・題材は、発達段階に応じた多様なものを取り扱っています。それは全て、筆者が前向きに生きたり探究心をもって関心のあることに取り組んだりすることから生まれたものです。子どもたちは、題材だけでなく、筆者の考え方や姿勢からも、人間の生き方について学びます。行間にはじむ筆者の情熱は、子どもたちだけではなく、先生方をも引き付ける力を持っているのではないのでしょうか。

紙面作り・ 素材集め・ レイアウトなど

1冊の本としてのページ割りを考え、ページごとに紙面構成を決めていきます。その後、挿絵や図、写真などの素材をそろえ、レイアウトを確定します。

- ページ割り
- 文字部分の原稿確定
- 挿絵依頼・図版作り
- 写真探し・写真撮影
- デザイナーとのやり取り
(レイアウト)



デザイナーとのやり取り



写真探し

編集会議 (教材構成の審議)

発達段階や学習の積み重ねを勘案し、教材の構成を考えます。

合格通知

(検定決定)

検定に合格後、教科書
番号が示されます。

修正意見提出

意見がついた事項に
ついて、修正を加え
て再提出します。

検定審査意見 通知

審議の結果が文部科学
省より通知されます。
修正すべき点について
意見がついた場合は、
どのように修正するか
を考えます。

印刷所へ

(確定原稿)

確定した原稿を印刷所へ渡し、
印刷用のデータを作成します。
誤りがないよう何度もやり取り
しながら校正・校閲を重ねます。

- 校正・校閲
- 印刷

供給の1年前

「見本本」完成

検定意見の他に、申請本から修正すべき点を
修正します。修正にあたっては、文部科学省
に再度、書類を申請します。許可が出たら、
印刷・製本し、表紙もついた「見本本」が完
成します。教科書採択の際には、見本本をも
とに教科書の内容を判断していただきます。

採択

どの出版社の教科書
を使うか、採択が行
われます。

供給の約2年前

検定審査提出

(申請本)

教育基本法や学習指導要領に照らし、
教科用図書（教科書）としての基準
を満たしているかどうか、文部科学
省による審議が行われます。

「供給本」完成

実際に子どもたちの手に渡る
教科書のことを「供給本」と
よびます。最終点検後、採択
によって確定した児童数分の
供給本を印刷・製本します。

検定審査提出用 「申請本」完成

文部科学省による教科書検定の提出用の本を
「申請本」とよびます。公正な審議のため、
申請本には出版社名を入れず、白い表紙で提
出しますが、中身はもちろん完成品です。

供給

全国の学校の教室へ

完成した供給本は、全国の特約書店を通し
て、学校に配本されます。新しい教科書が、
ようやく子どもたちのもとへと届きます。